

北の自然

第24号

1985年5月10日



日高意見広告「50mm²声の買い取り運動」について

「五十平方ミリ声の買い取り運動・日高の自然を残すアピールにあなたも参加しませんか」。こんなキャッチフレーズで、私たち北海道自然保護団体連合（寺島一男代表代行、自然保護団体二十三で結成）の意見広告掲載の運動が昨年九月一日スタート。今年三月末日までに道内はもとより、全国から約九百人の賛同者が一口千円のお金を寄せてくれ、四月十日付の朝日新聞道内版に道路工事の建設中止を求める全面広告を出すことができました。

私たちが意見広告を出そうと考えたきっかけは、日高山脈を開発から守りたいという、自然を大切に思う市民としての発想からです。緑豊かな北海道とはいえ、開発による破壊は、とどまるどころを知りません。土地が広いだけに、破壊の面積も大規模です。なんとか歯止めをかけようと有志がのり、昭和五十年に北海道自然保護団体連合が生まれました。これまで、大雪山縦貫道路の建設など自然破壊につながる開発行為に反対してきました。今回のキャンペーンもその一つです。

日高山脈はわが国を代表する山岳地帯ですが、昭和五十四年に北海道開発庁から横断道路計画がもち上がりました。経済効果も極めて乏しく、悪名高き南アルプス「パー林道以上の自然破壊が起きることは必至ですので、私たちは考えられるさまざまな反対活動を続けてきました。

た。しかし、五十九年十月に計画は着工され、運動にも一つの区切りがつけられました。これまでの「着工反対」から、工事途中での「計画廃止」を求める粘り強い運動を展開しようというのが、私たちの考えです。

なぜ意見広告なのか

これまでの私たちの運動は、開発主体のお役所や企業などへの抗議、関係機関への陳情や働きかけ、世論づくりのための署名集め、イベント、映画づくり、写真展、専門家の声の集約などでした。大別すると、一つは「行政への働きかけ」に、一方で「世論形成」となります。

この二つは相互に密接に関係しますが、後者は、年をおうごとにやっかひになりつつあります。例えば、昭和四十年代、公害問題が盛んに言われていたころは、環境庁がでるなど、反公害・自然保護の声はまとまり、世論の盛り上がりを見やすい時代でした。しかし、最近では世界的な規模で、砂漠化や酸性雨といった環境問題が起きているにもかかわらず、国内での具体的問題に対する世論の盛り上がりは、今一歩というところですが、特に北海道では、明治以来の開発優先の歴史から、環境問題への反応は鈍い感がゆがめません。「日高山脈を守ろう、道路建設に反対」という運動は「生臭すぎる」という声もあるほど。

こうした中で、何とか世論形成をと思っているわけですが、新聞やテレビの、日高問題についてのニュース報道だけでは、どうしても物足りないわけです。そこで意見広告のアイデアが生まれました。市民運動のような、ボランティア・金欠集団には、難しさもあります。それでも不特定多数の、しかも、万単位の人々に伝えるということとは、このうえない魅力です。特にテレビのよりに、映像で流れる広告と違い、新聞は読まれるわけです。そこには考える時間があります。後日、反応を確認する道もできます。そして、何よりも、運動する私たちが自身の「宣言」として成り立つことがメリットです。

声の買い取り運動

「魅力的な意見広告。されど金はなし。」そこで考えたのは、ナショナルトラスト運動に似た「五十平方ミリ声の買い取り運動」です。一人の力では、とうてい無理。少数の人間が貯金をはたけなければなりません。一人千円なら参加しやすい金額だろうと考えて、参加を呼びかけるチラシ四万枚を印刷。九月四日、札幌市民会館で、この運動のスタートとなる市民集会を開き、加盟する道内の自然保護団体、会員はもちろん、全国の友好団体、知人に連絡をとりました。

締切りの三月三十一日までの七ヶ月間うち、最初はず

ラシが一人歩きをするだけで、反応は少なく、じつと様子を見るしかありません。二カ月くらいたったころから、企画に対する意見が寄せられました。大別すると、「発想としておもしろく、新鮮」「一人千円で、意見広告が出せるわけがない。甘すぎる」という二つの声でした。広告料金を調べてみると、指摘の通りで、全国紙の全面広告では二千万円以上かかるとのこと。意見広告II情報がいかに高いものか、身にしみました。何気なく見る新聞の記事も広告も、たいへんなエネルギーで作られていることを知らされました。

年が明けて、やはり全国紙の広告はあきらめ、せめて道内の複数の新聞社に出そうという方針にしました。しかし、地元的全道紙でも広告料金は市民運動の枠を超えるほどです。広告のサイズも、私たちは全面以外ではだめ、小さいと賛同者の氏名が掲載できなくなると考えていました。結局、検討の結果、地元的全道紙より料金が安い、他の全国紙道内版に比べ、環境問題に関心を持つ読者が多い、ニュース面でも「守ろう緑」の積極的なキャンペーンを続けているなどの理由で朝日新聞一社にしばらくすることにしました。

掲載日は、四月十日と決めていました。この日は、二年前の知事選挙にあたります。選挙にあたって、私たちは、立候補者三名に公開質問状を出しました。当選した横路幸弘氏は、日高中央横断道路計画について、「環境アセスメント道条例の対象事業とします。」と回答しました。しかし、約束は守られません。公約違反に対する私たち

のささやかな抵抗をこめて、この日を選んだのです。三月、私たちの運動も終盤に入り、意見広告についてのニュースが各紙に掲載されたこともあって、一般読者からの申し込みも、かけ込みのように入って、なんとか目標額を超えることができました。

成果はいかに

四月十日、待望の全面広告が掲載されました。「原生の自然ここに、私たちは日高中央横断道路の建設に反対します。」という大きな活字が踊っています。広告面の上半分は、日高山脈の航空写真、下半分に、二百字ほどの工事中止を求める文章。それに賛同してくれた個人、団体約九百人の名前がずらりと並びました。

会員や市民から「見ましたよ」という電話の他、ハガキ・手紙による意見が寄せられました。いずれも「計画は着工されても、粘り強く闘って欲しい」という激励。「署名やカンパならできるので協力したい。」という賛同の声でした。

今回のキャンペーンを通して、直接運動はできなくとも、支援したいという人たちがいかに多いかを痛感しました。そうした人々の声をまとめ、さらに考えを同じくする私たちが、広告面を通じて間接的に会えたことが、最大の成果といえましょう。さらに、「やればできる」という自信を、私たちに与えてくれました。

多数の人々の声の集約である意見広告は、より計画的に進めるなら、市民運動の活動として、十分有効な手段であることを確信しています。もちろん、広告料金が高過ぎるという問題は残りますが、新聞などのマスメディアが「世論形成の公器」としての自覚を持っているなら、その改善も期待できましよう。一ペーシの全面広告は、新聞を読者に身近なものにもしてくれました。これからも、日高山脈を守る運動は続けられます。その時、意見広告に賛同してくれた人たちが、後日寄せられた声。さらに形には出されなけれど、日高を見守る人々のおもいを大切にしていきたいと思えます。

文責 田中明子

第2回

日高セミナーのご案内

日高の自然に肌で触れてみてくだとい、都市にはない、原生の自然がそこにあります。多くの動物や植物が生きています。

反面、ダムや林道で、破壊されている傷も生々しく見ることができます。そこは、破壊の最前線でもあります。

みなさんの参加をお待ちしています。

記

とき : 8月3~5日
ところ : 日高山脈、ペテガリ山荘
集合は、札幌駅北口です。

コース、 A : 現地視察コース
8月3・4日
参加費 10,000円

B : ペテガリ登山コース
8月3・4・5日
参加費 12,000円
現地視察後、ペテガリ岳の登山をします。

定員は、 Aコース 30人
Bコース 20人

植物・地質の講師の方に、日高の自然について、学習できるのも魅力の一つです。

詳しいことは、事務局までご連絡ください。

〃 日高中央横断道路その後 〃

去年十月、日高中央横断道路は着工されました。その工事日程など、進みぐわいをみますと、予想よりはるかにゆつたりしていることに驚きます。

十勝側については、工事開始場所が、札内川七ノ沢の出会いのかなり手前。固定公園指定境界近くにある中札内村のピョータンの滝から十三・六キロ上流の地点。札内川に沿って走る砂防ダム工事道路の幅で、帯広土木現業所が担当します。昭和五十九年、六十一年までの三ヶ年で、三百メートルを二億円かけてつくりまします。工事内容は、幅員を三・五メートルに広げ、札内川側に盛り土や護岸用の根固めブロックをつくり、さらに、落石防止サク、排水溝、路盤固めなどをします。

日高側は、十月三十日に、静内町奥高見地区、ナナシの沢出会いの林道から着工されました。当面は林道の盛り土工事が主です。

私たちは、道路着工に対して、知事に抗議文を出しました。今年からは、工事などのように進められ、周辺環境がどう変化するかを見るために「監視プロジェクト」をつくりました。静内・十勝両方を、地元の人々を中心にメンバーを選び、定期的に現地を監視しようというものです。さらに、多くの方に日高山脈の素晴らしさと、道路工事の無謀さを知ってもらうため、今年も「日高セミナート」を実施します。開発主体である、北海道や北海道開発庁とも、話し合いを持ちたいと思います。

道路が、日高山脈の中心部に入る前に、計画を廃止させたいと思っています。そのためにも是非会員他皆さんの知恵を貸してください。

編集後記

今号は、日高意見広告を中心に、報告をかねて編集しました。

千歳川放水路計画も、いよいよ大詰めになりました。次号では、計画内容と、放水路をつかわない、洪水対策などを特集したいと思います。

また、支笏湖畔の観光開発(美瑛地区レジャート基地計画)も、主な出資元のヤマハ(他に日本航空、千歳市、大滝村)が、撤退しましたが、千歳市は、あくまで計画を実施するかまえます。

次号で詳しくお知らせします。

一九八五年五月十日

編集発行 北海道自然保護団体連合

代表代行 守島 一男

連絡先 札幌市中央区南二条西八丁目

山鼻レジデンス一〇〇六

電話 (〇一一) 五一—一九二二六

振替口座 小樽 一—四〇七一